



2008年3月期決算説明会



株式会社クレオ
2008年5月8日



決算報告

2008年3月期 決算ハイライト

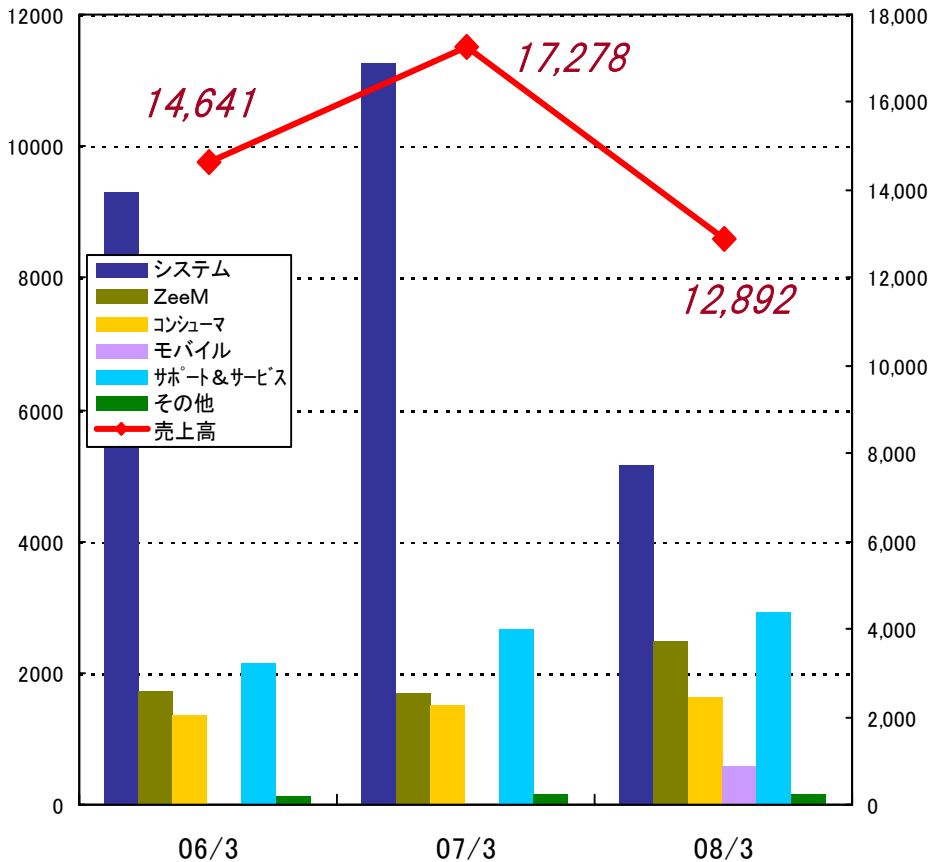
- 2008年3月期の売上高は128億92百万円(前期比25%減)、営業利益は49百万円(前期は営業損失6億38百万円)、経常利益は42百万円(前期は経常損失6億91百万円)、当期純損失は1億31百万円(前期は当期純損失9億60百万円)となった。
- システム開発事業は、当期発生した一部不採算プロジェクトの影響による機会損失と中央システム(株)の連結除外により売上高51億53百万円(前期比54%減)、営業利益8億33百万円(前期比26%減)となった。
- ZeeM事業は、当期見込んでいた売上が一部来期にずれ込んだものの、ライセンス販売の増加や品質管理コストの減少により売上高は24億86百万円(前期比36%増)、営業損失は2億72百万円(前期は営業損失10億43百万円)となった。
- コンシューマサービス事業は、筆まめおよびプロアトラスの販売動向に見合った出荷等によるシェアの確保により売上高は16億18百万円(前期比7%増)、営業利益は2億28百万円(前期比27%増)となった。
- モバイル事業は、売上高は5億76百万円、営業損失は28百万円となった。
- サポート&サービス事業は、ダイレクトサービス部門の拡大、既存分野での安定的な収益により売上高は29億04百万円(前期比9%増)、営業利益は1億92百万円(前期比20%増)となった。
- その他事業は、ネットショップ管理専用ソフト「速販」関連の開発案件増加により売上高は1億53百万円(前期比723%増)、営業損失は33百万円(前期は営業損失91百万円)となった。

※当会計年度よりセグメント変更を行っているため前年同期実績を変更後のセグメントに組替えております。

2008年3月期 決算の概要(売上)



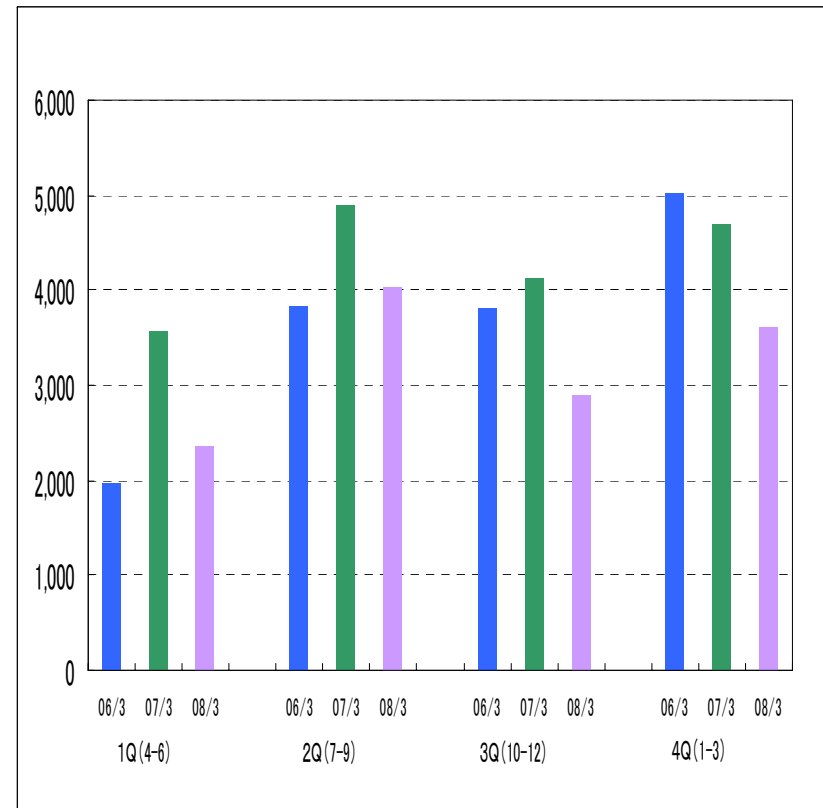
(百万円) 売上高:セグメント別



■07/3期 中央システム売上高 4,291百万円

■ZeeM事業の改善

売上高:四半期推移



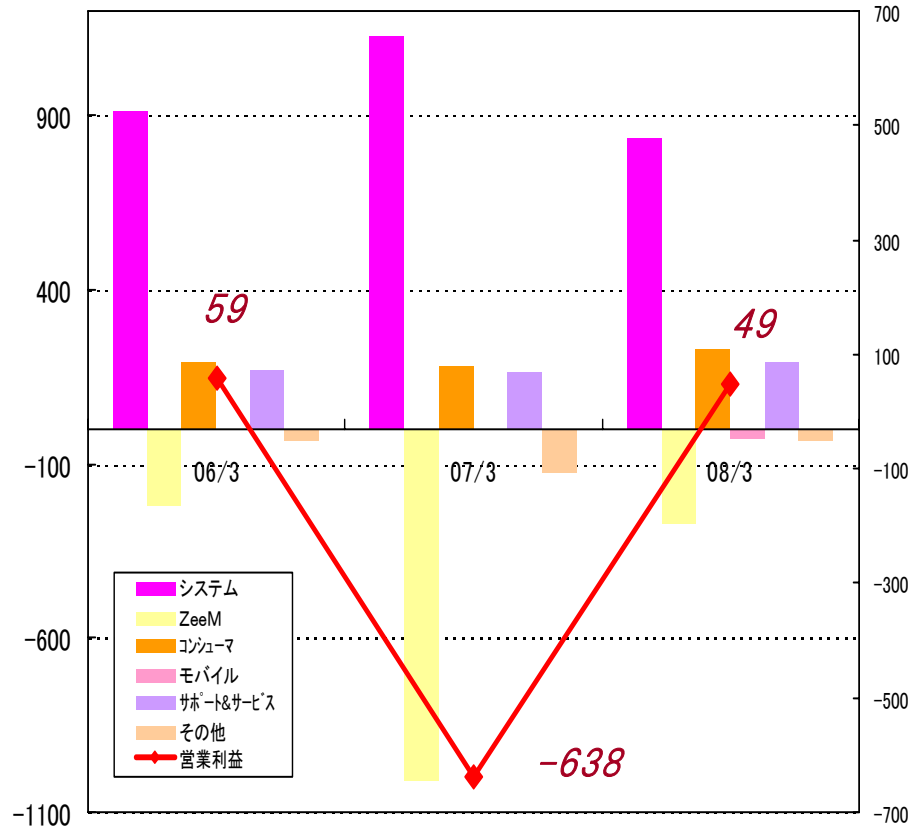
	1Q	2Q	3Q	4Q
06/3	1,969	3,841	3,811	5,020
07/3	3,573	4,887	4,123	4,695
08/3	2,368	4,033	2,892	3,599

2008年3月期 決算の概要(営業利益)



営業利益:セグメント別

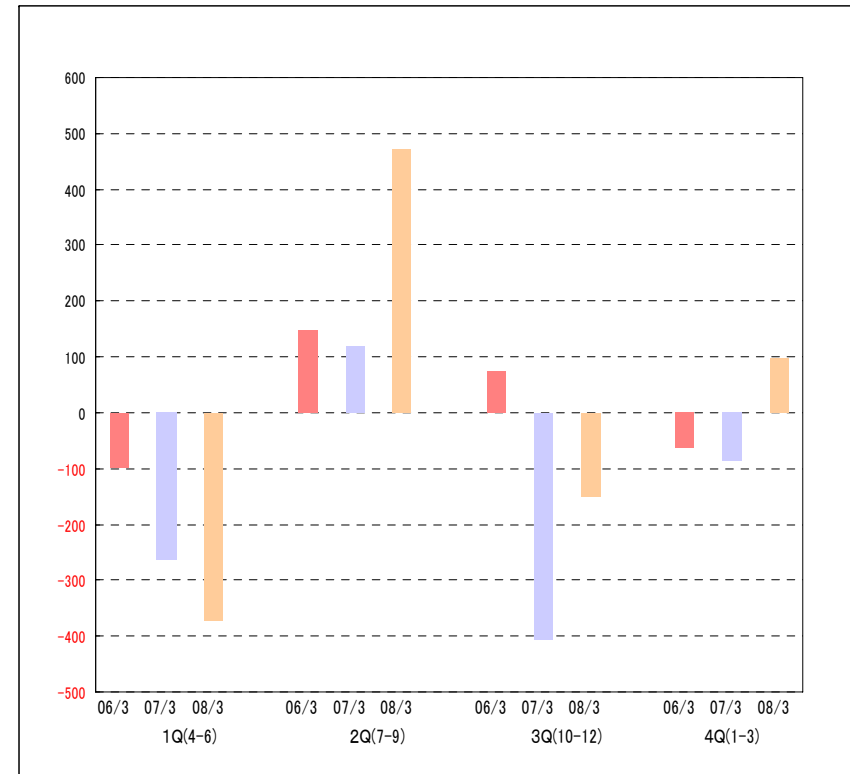
(百万円)



■07/3期 中央システム営業利益 152百万円

■ZeeM事業の改善

営業利益:四半期推移



	1Q	2Q	3Q	4Q
06/3	-98	146	75	-64
07/3	-265	120	-406	-87
08/3	-371	472	-150	98

2008年3月期 損益計算書の概要

〔百万円未満は切り捨て〕

主な科目	2008/3末			2007/3末	
	金額	百分比	増減	金額	百分比
売上高	12,892	100.0%	△4,385	17,278	100.0%
営業費用	12,843		△5,073	17,917	
営業利益 (△は営業損失)	49	0.4%	688	△638	-3.7%
営業外損益	△6		46	△52	
経常利益 (△は経常損失)	42	0.3%	734	△691	-4.0%
特別利益	-		△738	738	
特別損失	44		△499	543	
税引前当期純利益 (△は税引前当期純損失)	△1	0.0%	495	△496	-2.9%
法人税等	131		△63	195	
法人税等調整額	△4		△305	301	
少数株主利益 (控除)	1		34	△33	
当期純利益 (△は当期純損失)	△131	-1.0%	829	△960	-5.6%

増減ポイント

- ・売上高および営業損益については決算ハイライトの通り
- ・営業外損益：
サイオが06/10より連結子会社になったことによる営業外費用（72百万円）の減少
- ・特別利益：
前期は中央システムの株式売却
- ・特別損失：
前期はソフトウェア臨時償却

2008年3月期 貸借対照表の概要①

[百万円未満は切り捨て]

主な科目	2008/3末			2007/3末	
	金額	構成比	増減	金額	構成比
資産合計	7,626	100.0%	△944	8,571	100.0%
流動資産	5,590	73.3%	△761	6,351	74.1%
現金・預金	2,644		899	1,744	
受取手形及び売掛金	2,392		△328	2,720	
棚卸資産	294		△89	382	
繰延税金資産	72		7	64	
その他	185		△1,252	1,438	
固定資産	2,036	26.7%	△183	2,219	25.9%
有形固定資産	255		46	208	
無形固定資産	969		△185	1,154	
ソフトウェア	599		△124	723	
のれん代	353		△60	413	
その他	16		0	16	
投資等	811		△44	856	

増減ポイント

流動資産

- ・現金・預金：
中央システム株式売却代金
(1,250百万円)があるものの借入社債
返済等により899百万円の増加
- ・受取手形及び売掛金：
システム開発事業の売上減少に伴う
売掛金の減少

固定資産

- ・無形固定資産：
マスターおよびのれん償却による減少

2008年3月期 貸借対照表の概要②

〔百万円未満は切り捨て〕

主な科目	2008/3末			2007/3末	
	金額	構成比	増減	金額	構成比
負債合計	2,900	38.0%	△731	3,632	42.4%
流動負債	2,307	30.2%	△436	2,743	32.0%
買掛金	637		△66	703	
短期借入金および社債	210		△95	305	
その他	1,460		△273	1,733	
固定負債	592	7.8%	△296	889	10.4%
長期借入金および社債	420		△273	694	
その他	172		△22	194	
純資産合計	4,725	62.0%	△213	4,939	57.6%
資本金	3,149		0	3,149	
資本剰余金	3,759		△2	3,761	
利益剰余金	△2,031		△131	△1,900	
自己株式	△200		△61	△138	
株式等評価差額金	△12		△19	6	
少数株主持分	62	0.8%	1	61	0.7%
負債純資産合計	7,626	100%	△944	8,571	100%

増減ポイント

負債

- ・短期借入金及び社債:
定時返済による短期借入金の減少
- ・その他:
未払金の減少
- ・長期借入金:
定時返済および1年内返済長期借入金への科目振替

純資産

- ・利益剰余金:
当期損失による増加
- ・自己株式:
自己株式買取による増加

2008年3月期 キャッシュフロー計算書の概要

〔百万円未満は切り捨て〕

区 分	2008/3末		2007/3末
	金額	増減	金額
営業活動C F	681	△385	1,066
税金等調整前当期純損失	△1	495	△496
減価償却費	580	△339	919
売上債権の増減額（増加：△）	330	△43	373
たな卸資産の増減額（増加：△）	88	△477	565
仕入債務の増減額（減少：△）	△66	103	△169
その他	△250	△124	△126
投資活動C F	550	1,919	△1,369
無形固定資産の取得	△418	△19	△399
子会社株式の売却による収入	1,207	△1,207	-
その他	△239	731	△970
財務活動C F	△438	△297	△141
長期借入金の返済による支出	△218	△94	△124
社債の償還による支出	△150	0	△150
その他	△69	△202	133
現金及び現金同等物の期末残高	2,537	792	1,744

増減ポイント

営業活動キャッシュフロー

- ・減価償却費：
マスタ－償却費の減少
- ・たな卸資産：
システム開発事業等の仕掛品の減少

投資活動キャッシュフロー

- ・子会社株式の売却による収入：
中央システム株式売却による収入
(4月入金)

2008年度の計画

(百万円)

	07年度第 1 四半期	08年度第 1 四半期	07年度第2 四半期累計	08年度第2 四半期累計	07年度 通期	08年度 通期
売 上	2,368	2,337	6,401	6,370	12,892	13,680
営業利益	△371	△365	101	△90	49	195
経常利益	△371	△372	101	△103	42	170
当期純利益	△400	△460	22	△220	△131	10

■第1四半期見通し

- ・ 前期と概ね変更なし
- ・ 当期純利益の悪化は繰越税金資産の取崩しを見込む

■第2四半期累計見通し

- ・ ZeeMプロモーション等を上期に集中的に実施することによる費用の先行
- ・ 筆まめ初期出荷を保守的に計上

■通期見通し

- ・ ZeeMの黒字化とシステム開発の利益率改善により、最終黒字化を見込む



2008年度 重点方針

黒字化の達成

- (1) ZeeM事業の黒字化
- (2) システム開発事業の利益率向上
- (3) 筆まめ事業のシェアNO. 1維持・利益拡大
- (4) モバイル事業の通期黒字達成
- (5) 間接費圧縮による本社経費削減

ZeeM事業 ポイント



(1) ZeeMソリューションの本格始動

販売管理、購買管理などのソリューションの拡充による
ワンストップソリューションの推進。

(2) 上期プロモーション活動を最大化

広告宣伝を上期ベースで昨年の約3.7倍増へ。
下期の受注刈取りを最大化へ。

(3) SaaS, ASPへの取り組み

NEXTWISEの事業譲渡によるSaaS運用開始。
ZeeMのSaaS対応準備の最終局面へ。

システム開発事業ポイント

(1) 選択と集中による不採算PJ根絶と利益率向上 開発の各フェーズにおける審査工程(PMO活動)の厳格化

【当社のPMO活動フロー】

AP0 商談審査	AP1 見積審査	AP2 実行計画審査	AP3 設計審査	AP4 テスト審査
<ul style="list-style-type: none">・商談推進の可/否を審査 <p>〔大規模/ 高業務スキル/ 戦略商談 等〕</p>	<ul style="list-style-type: none">・見積の妥当性検証 <p>〔見積根拠 前提条件 等〕</p>	<ul style="list-style-type: none">・プロジェクトの実行計画の妥当性検証	<ul style="list-style-type: none">・顧客要件との整合性を検証・設計品質のレビュー・工程完了判定	<ul style="list-style-type: none">・テスト品質のレビュー・工程完了判定

(2) ヤフーソリューション事業は綿密な人員計画 および配置による売り上げ確保。

開発系からサービス系(運用・テストセンター)の拡大へ。

コンシューマサービス事業ポイント

)))

**(1)筆まめ・プロアトラスなどシェアNO. 1製品の
維持・利益拡大**

**(2)筆まめのビジネスインフラの利用による
パッケージ展開の多様化。**

昨年度実績:プロアトラスを展開(BCN Award受賞)

(3)筆まめonlineなどのネットサービスの本格化

2008年4月より無料コンテンツサービス開始

モバイル事業ポイント



(1)年間を通して黒字の達成

(2)モバイル広告事業への参入

(3)通学ケータイのSoftBank対応へ

(1)間接費圧縮による本社経費の削減。

←前年比1億円削減。

内部統制に則った社内整備を行い業務の効率化を実施。
部門との連携を強化し業務処理の前工程を強化。

(2)内部統制／コンプライアンス活動の維持・向上。

リスク出しによるリスク対応策の実施と回避。
事業継続策の作成、コンプライアンスに則った経営。

(3)全社的な連携・提携の模索による黒字化対策。

昨年度実績

- ・ネットジーンの合併、モバイル事業への参入。
- ・ワイズノットとの提携によるNEXTWISE譲渡。
- ・アルプス社との提携によるプロアトラス発売。
(BCN Award受賞)

組織構成

取締役会長 川畑種恭
 代表取締役社長 土屋淳一
 取締役 太田治人
 取締役 井上雅博
 取締役 大矢俊樹

株主総会
 取締役会
 会長
 社長

監査役会
 監査役

CFO 取締役 大矢俊樹
 CMO 取締役 太田治人
 CISO 執行役員 石塚敏明
 CTO 押尾孝浩

業績進捗会議

経営会議

業務監査室

室長 加藤清隆

管理部
 担当役員 石塚執行役員
 本部長 石塚敏明

ソリューション事業部
 事業部長 柿崎淳一

プロダクト事業部
 事業部長 林森太郎

ZeeM戦略統括部
 統括部長 宮島利光

ZeeM事業
 担当役員 大矢取締役

関西システム事業部
 事業部長 村上貴生

関西事業
 担当役員 大屋執行役員

システム開発事業部
 事業部長 高橋武

パーソナルソリューション事業部
 事業部長 古賀庸弘

システム開発事業
 担当役員 高橋執行役員

筆まめサービス事業部
 事業部長 萩原義博

コンシューマサービス事業
 担当役員 萩原執行役員

モバイル事業部
 事業部長 箕作大

モバイル事業
 担当役員 箕作執行役員



ご清聴ありがとうございました



本資料に関するお問い合わせは下記までお願い申し上げます。

株式会社クレオ
広報・IR室: 西山 綾子
〒108-0074
東京都港区高輪3-19-22
電話: 03-3445-3539
E-mail: ir@creo.co.jp

本資料に記載される見通し、今後の予測、戦略などに関する情報は、本資料作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲でなした判断に基づくものです。しかしながら、現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控え下さるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であっても、本資料を無断で複写・複製、または転送などを行わないようにお願いします。